



鬼面文鬼瓦

暑かった夏も過ぎ去り、ご近所の散策には快適な季節となりました。笛吹市も誕生して1年になろうとしています。このコーナーでは市内の文化財を紹介してまいりましたが、文化財にはその地に生きた人々の営みが凝縮され、歴史・文化の特色を示していると言われます。そのため文化財を知り、活用することは笛吹市の特色をより魅力あるものにしていくのではないのでしょうか。今回は一宮町国分地区にある甲斐国分寺跡を紹介し、古代の笛吹市がどんなところであったのかを見ていきたいと思います。

今から1200年前の奈良時代に、聖武天皇は仏教で国家を護るため全国に国分寺と国分尼寺を建てるよう命じました。「国分寺建立の詔」です。当時「甲斐国」と

笛吹市探訪

シリーズ **第7回**

一宮地区

古代甲斐国のシンボル 甲斐国分寺跡



発掘中の国分寺塔跡

呼ばれていた山梨県では笛吹市一宮町国分に国分寺が、同東原に国分尼寺が建てられました。

甲斐国分寺跡は南北約330メートル、東西約250メートルの中に南門・中門・回廊・塔・金堂・講堂・鐘楼・経蔵などの建物があったと考えられています。

当時の建物はすべて失われていますが、柱を支えていた巨大な礎石が残されていて、建物の規模や配置を知ることが出来ます。なか

でも塔跡はよく保存されており、一部が失われていますが正方形に配置された礎石が残っています。

中心には「心礎」というひととき大きな石が置かれ、建物の中心となる「心柱」という柱が立てられました。建物の一辺は約10メートル。この大きさは現存する日本最大の木造塔、京都にある東寺の五重塔に匹敵します。東寺の五重塔は高さが55メートルあるので、国分寺の塔も50メートルぐらいの高さがあつたのかもしれない

高さがあつたのかもしれない。しかしこの大きさでも全国の国分寺の中では中規模なもので、詔では七重塔を建てるように命じられていました。甲斐国分寺跡の塔は五重塔だったのでないかと推定する研究者もいます。

また、詔では塔を建てる寺は「兼ねて国の華となす」とされており、当時の甲斐国の力を示すシンボルとなるように建てられたものと考えられます。

国分寺跡からは建物の屋根を葺いていた瓦が大量に出土しています。中でも軒先を飾っていた軒丸瓦には蓮華の文様が、軒平瓦には唐草文が描かれています。また、棟を飾っていた鬼面文鬼瓦も出土しています。

甲斐国分寺跡の北側約500メートルには甲斐国分尼寺跡があります。国分尼寺跡は国分寺跡よりも一回り小さく、180メートル四方の中に南門・中門・回廊・金堂・講堂などがあつたと推定されています。国分寺跡から南東方向、大石川の源流となる山の中には僧侶たちの山林修行の場であつた大積寺跡も残されています。

甲斐国分寺が造られた時代、甲斐国の役所ははじめに春日居町国府地区、その後御坂町国衙地区に設けられ、甲斐国の政治の中心は笛吹市内にありました。同時にこの地域は文化の中心でもあり、古代寺院があつたと推定される遺跡は国分寺跡を含めて7ヶ所以上確認されています。なかでも春日居町・寺本廃寺は甲斐国分寺跡より古く、県内で最古の寺院遺跡ですが、この補修に用いられた瓦は甲

きんせいからくさもん
均整唐草文軒平瓦



軒平瓦



そべんはちよう
素弁八葉軒丸瓦



ふくべんはちよう
複弁八葉軒丸瓦



軒丸瓦

斐国分寺跡の瓦と同じ文様のものが使われています。また、八代町・瑜伽寺では甲斐国分尼寺跡と同じ文様の瓦が用いられていました。当時の笛吹市は御坂町の国衙あたりを境に春日居町・石和町・一宮町が山梨郡に、八代町・境川町が八代郡に属していましたが、寺本廃寺は山梨郡を、瑜伽寺は八代郡を代表する寺院であつたと思われ

ます。国分寺跡周辺の遺跡からは県内各地の地名を書いた土器が出土しています。「林戸」（一宮町東原周辺）、「玉井」（一宮町坪井から石和町上平井周辺）、「井上太」（御坂町井之上周辺）、「石末東」（石和町小石和周辺）、「白井」（中道町白井から境川町石橋周辺）などです。これらの土器はその地名の地域から人々が働きにきていたことを示しています。

このように甲斐国分寺・国分尼寺の造営にあたって、笛吹市内の人々が協力して行っていたことが窺えます。甲斐国分寺が造られた時代は、法律や地方制度が整えられ、日本が国家として成立していた時代です。甲斐国にあつても

役所や条里と言う土地区画、都と結ぶ交通路やその輸送手段となる馬の生産体制などが整えられていた「国づくりの時代」でもありません。その国づくりの中心を担った笛吹市域の人々のシンボルとなつたのが甲斐国分寺であつたと言えるのではないのでしょうか。

甲斐国分寺跡へは、国道20号線の東原交差点を南へ曲がって下さい。50メートルほどで左側に甲斐国分尼寺跡、500メートル先のT字路付近が甲斐国分寺跡です。国分寺は1200年間にわたって法灯を伝えてきましたが、史跡の保存のために森林公園金川の森の隣に移転が進められています。金川の森の中には全国でも10例ほどしかない八角形をした古墳、経塚古墳や四ツ塚古墳群も復原整備されています。

また、国分寺跡から出土した瓦や復元模型が10月15日に開館する山梨県立博物館で展示される予定になっています。実際の遺跡と展示物で古代の甲斐国の壮大な姿を思い浮かべてください。

笛吹市教育委員会 社会教育課